

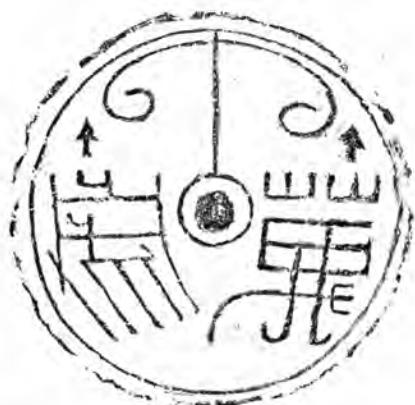
主図版① 「万歳」の瓦当（ほぼ原寸）



図版② 元の瓦の写真

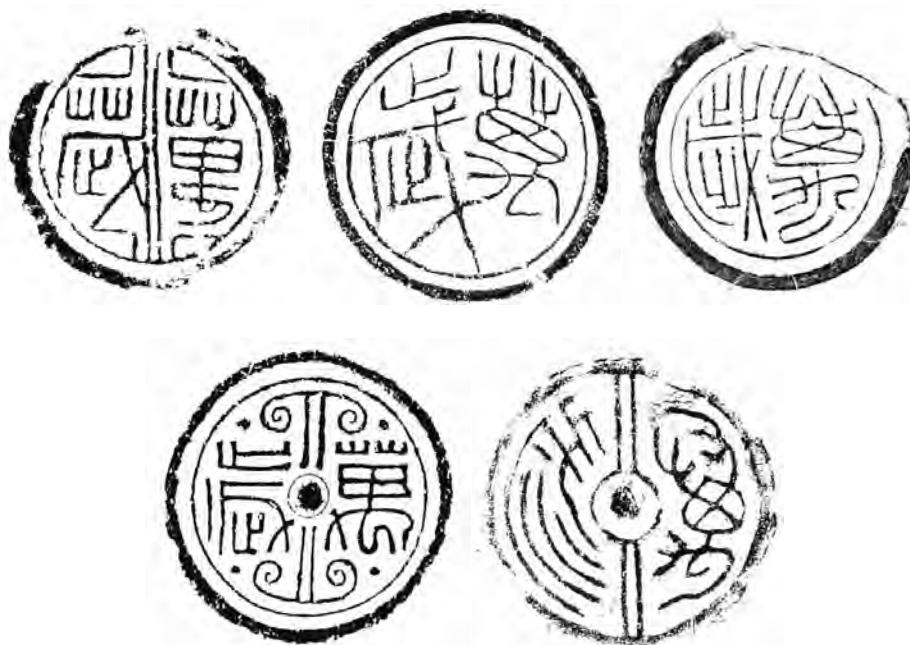


図版③ 主図版①とほぼ同じ様式



# 「秦漢時代の瓦当と磚文」

## ①「万歳」瓦当 後漢時代



図版④ 布置の異なる五種の万歳瓦当



瓦当とは、屋根の軒先の先端瓦を指します。奈良、京都などの古い都市の、昔ながらの大きな寺社建築には、旧い様式の建築が残されています。図⑤は、軒先の瓦の写真です。円い蓮花模様の瓦が、丸瓦（鎧瓦）と呼ばれています。丸瓦と丸瓦の間にあるのが、平瓦です。今回から取り上げる瓦当は、この種の丸瓦の、1、2世紀、中國漢時代のものが中心です。右頁に示した「万歳」の瓦当は、直径16cmほどの大きさです。上の拓本の主図版①が、ほぼ原寸です。右下に元の瓦の写真（図版②）を付しました。現在の瓦とほぼ同じ大きさでしようか。当時は、実際の宮殿などの

建物に使用されていたものです。火事や戦乱で木造の宮殿などが壊れ、屋根も崩れ落ち、長い間地中に埋まっています。近代になり土地の開発などで偶然なことから発見され、文字や紋様や画像が刻されていることから注目されました。この種の瓦の文字をされ出しました。この種の瓦の文字を「瓦当文」と呼んでいます。円の中に篆書体で巧みに見事な文字構成をしています。そのために篆刻や文字の意匠研究の古典として学ばれています。

「万歳」の吉語の瓦はそれほど多くは、発見されていません。主図版とほぼ同じ様式のもの（図版③）が中国書道全集に掲載されています。数種類だけです（図版④）。円を二分して、その半円全体を埋め尽くすように文字を半円形に組むものもあれば、線紋様で区切り、その中に文字を配置するものなどそれぞれの意匠を見ることが出来ます。

☆明けましておめでとうございます。

この巻頭の欄を担当して、はや10年が経ちました。半世紀の間、書の古典資料の世界で遊び、楽しんできたもののなかで、小生なりに面白い書を選んで紹介してきました。なおも続けるか、もう退くか時折悩みます。皆さんの忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせください。伊藤滋（書齋名・木鶴室）

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2017)



唐 岩 碧 水

### 懐旧の記



「深悼」 唐岩碧水書

私が書に関わったのは、小学校三年の時でした。母に連れていかれたのは川谷横雲先生のお宅でした。屋根に届かんばかりの桧の一枚板に川谷横雲と大書された看板にまず圧倒されました。伺うのが夜でした。母が教員だったせいで先生の奥様が2階1階杯の学習者の中、市外の遠方から来ているからとの御助言で先に添削を頂きました。先生は机上のたくさんの筆の中から穂先をなでながら1本えらんで御指導下さいました。

その温容顔と奥様のご配慮は終生忘れ得ない思い出となり生涯書に関わる因になりました。

太平洋戦争末期の物資欠乏や混乱で勉強も充分出来なくなり、川谷先生のお教室も閉じられました。

中学校も書道はなく高校でやっと芸術科書道を学ぶことが実現しました。中内南城先生の指導を受け、先生は若水帳と名付けた自製のテキストを併用され、教壇でジャンブして用筆を示され愉快でした。

大学では人生を決定づけた松岡雲峰先生でした。ハンサムで一度も怒声を聞いたことはなく、それでいて漢字、かなを厳しくいきついご指導を頂きました。鈴木翠軒先生の翠軒流でした。和様と唐様の折衷との点で研究一入であられ

ました。私が書に関わったのは、小学校三年の時でした。母に連れていかれたのは川谷横雲先生のお宅でした。屋根に届かんばかりの桧の一枚板に川谷横雲と大書された看板にまず圧倒されました。伺うのが夜でした。母が教員だったせいで先生の奥様が2階1階杯の学習者の中、市外の遠方から来ているからとの御助言で先に添削を頂きました。先生は机上のたくさんの筆の中から穂先をなでながら1本えらんで御指導下さいました。

その温容顔と奥様のご配慮は終

生忘れ得ない思い出となり生涯書に関わる因になりました。

太平洋戦争末期の物資欠乏や混乱で勉強も充分出来なくなり、川谷先生のお教室も閉じられました。

中学校も書道はなく高校でやっと芸術科書道を学ぶことが実現しました。中内南城先生の指導を受け、先生は若水帳と名付けた自製のテキストを併用され、教壇でジャンブして用筆を示され愉快でした。

大学では人生を決定づけた松岡雲峰先生でした。ハンサムで一度も怒声を聞いたことはなく、それでいて漢字、かなを厳しくいきついご指導を頂きました。鈴木翠軒先生の翠軒流でした。和様と唐様の折衷との点で研究一入であられ

ました。書は線である。行きつまつたら線に帰れ。」と若年時教わったことを座石の銘にしています。芸術は人間の美の追求の窮屈なるものと考へるなら、筆を通して自我を見つめる追求努力の果てない過程であります。我慾等を越えた形而上の聖なるものへの道程と考へる次第です。

上掲の作品は「深悼」全紙横の作品です。昨年10月、恩地春洋先生の思い止み難く書した拙作です。

1983年より恩地春洋先生のご指導にあずかります。ずっと現在も絶えることなく条幅の手本を頂いています。また度々ご多忙をさいて帰高され講習会を持って下さいました。井蛙の私には吹き込んで頂くに啓蒙そのものでした。多くは小学校で必ず浮かぶのは当院主催の単位認定講習会です。漢字仮名詩文刻字全てを網羅されての内容は、独身時代から何度も勉強させて頂いたか計り知れません。

翁寿を過ぎ老化一人の感の最近ですが、佳き師のもと、向学の念の先輩友人後輩に因縁され遅々たる歩みでも続け得る幸せは感謝の言でいいつぶせるものではありません。

林琴水先生のお供でした。中央書壇の息吹きの新鮮さ、まさに啓蒙そのものでした。多くは小学校で必ず浮かぶのは当院主催の単位認定講習会です。漢字仮名詩文刻字全てを網羅されての内容は、独身時代から何度も勉強させて頂いたか計り知れません。

1983年より恩地春洋先生のご指導にあずかります。ずっと現在も絶えることなく条幅の手本を頂いています。また度々ご多忙をさいて帰高され講習会を持って下さいました。井蛙の私には吹き込んで頂くに啓蒙そのものでした。多くは小学校で必ず浮かぶのは当院主催の単位認定講習会です。漢字仮名詩文刻字全てを網羅されての内容は、独身時代から何度も勉強させて頂いたか計り知れません。



謹賀新年  
丁酉歳旦を寿ぎ

明けましておめでとうございます。

2017年、平成29年の新年を迎え、皆様のご多幸をお祈りいたします。

昨年11月23日創立70周年を迎えた。これまで多くの先達の先生方のご努力ご功績により70年の歴史を積み重ねて参ることができました。私達はこの大きな財産を受け継ぎ、更に発展させていく責務があります。役員はじめ全国の会員の皆様方のご協力ご支援をいただき、一步一歩着実に前進して参りたいと思います。

創立70周年の記念事業は本展での「記念祝賀会」、「日本上代金石拓本展示」、「功労者表彰」、全国13の総支局における「役員作品巡回展・各総支局展」、オーストリア・ウイーンでの「海外展」、「創立70年記念誌」発行など多彩な展開を行います。皆様方のご支援、ご協力を切にお願いいたします。

平成29年元旦

公益財団法人書道芸術院理事長

辻元大雲  
役員一同

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

毎日書道展規定・特別昇格決定  
参与会員に本院より砂本杏花、新井京華両先生推挙さる

12月9日開催された毎日書道会定例理事会において第69回展主要人事および規定昇格者、3年ごとの特別昇格者などが決定した。

69回展実行委員長 鬼頭墨峻

・審査部長 室井玄聰

・総務部長 松井玉等

・陳列部長 堀 吉光

・運営委員（院関係）  
大野祥雲（大字）板垣洞仙（前衛）

・名譽会員推挙 竹内鳳仙、千葉半庄

・参与会員推挙（院関係）  
砂本杏花・新井京華

・審査会員昇格（院関係） \*印特別

漢字部 \*三浦鄭街  
近詩部 飯沼恵鳳、\*高田幽玄

大字書 \*青柳明華  
前衛書 千葉華紅、\*柳町祥香

・会員昇格（院関係） \*印特別  
漢字部 影山扇葉、西古春堂

かな部 山田翠香、\*児玉韜光  
藤村昌子、\*野村知

か詩部 天野白扇、大野清玉  
尾田素紅

\*審査副委員長 下谷洋子ほか

## 第52回高野山競書大会人事

12月4日開催の高野山書道協会定例理事会にて平成29年度開催の第52回展

審査員など主要人事、日程が決まった。



12月4日開催の高野山書道協会定例理事会にて平成29年度開催の第52回展審査員など主要人事、日程が決まった。

## 大野祥雲先生高知県文化賞受賞記念祝賀会盛會に



お孫さんたちと嬉しそうな大野先生

## 第70回記念書道芸術院展一般公募、無鑑査搬入受付

12月15日第70回記念書道芸術院展一般公募・無鑑査作品の搬入受付が行われ、16・17日総務部によって作品整理、統計処理などが行われた。

ここ数年出品減の傾向が止まらず、搬入点数はまり少しはとった有様であった。表をご覧いただきたい。

12月15日第70回記念書道芸術院展の中心的役割を担つたことなどが高く評価されてのご受章となつた。1月5日には表彰式が挙行される。

わせ恩地春洋先生に特別功労賞が送られるに至つた。設定以来4人目の受賞。書道芸術院顧問など書団体の要職を歴任。海外で展覧会を開くなど書道を通じた国際交流に取り組み、書道文化の振興に尽くした。2004年から12年間、安芸全國書展の審査長として運営の中心的役割を担つたことなどが高く評価されてのご受章となつた。1月5日には表彰式が挙行される。

\*一般も学生と同じ半紙で出品します。一人10点まで。献書部門もあり多くの方々のご出品ご協力をお願いします。

12月26日・27日 展覧会会期 8月4日 表彰式 8月4日 関東展示会（品川別院）

最終審査 6月3日 物故者法要 6月4日 出品締切 平成29年5月23日 第2次審査 6月1日・2日

故恩地春洋先生  
安芸市特別功労賞ご受賞



大字書 刻字部 前衛書

小林青峰、東原春城  
大沼樵峰、相内菜摘、浅野彩紅、  
金井みどり、坂井初江、塚本真由美、富中成山、

当番審査員（院関係） 辻元大雲、下谷洋子、小竹石雲、小伏小扇  
主要日程

|        | 一般公募 | 前年  | 無鑑査 | 前年  |
|--------|------|-----|-----|-----|
| 漢字部    | 236  | 228 | 352 | 364 |
| かな部    | 71   | 83  | 76  | 73  |
| 現代詩文書部 | 198  | 224 | 301 | 327 |
| 篆刻・刻字部 | 26   | 33  | 30  | 36  |
| 前衛書部   | 130  | 120 | 169 | 195 |
| 合計     | 661  | 688 | 928 | 995 |
| 増減     | -27  |     | -67 |     |

漢字(四)

生田翠龍

筆で字を書くとなると誰しも、自由自在に筆が使えたと思うようですが、それなりに字が熟せるようにならぬ、「行が通らない」とか、「字粒がそろわない」などと、巷の「易しく」学べる

いうことに尽きます。  
今回も、細長い捌筆さばきふでを使  
い筆運びを試してみました。

(3) 行物 (1) と (2) と 行物 にしました。

(2) は対照的に用筆は単純化させ、藏鋒に徹し、腰までノド化し、極限まで筆尖を開き、重心を左にかけるか、右にするかを試し、藏鋒をどう持続させるかに懸けています。

3) は通常の



(3)



(2)



(1)

(2)を書いた後  
ではとても書  
き進みやすく  
その出来振り  
はともかく安  
堵した作品と  
なりました。

# 21世紀の書

## —私の主張—

# —私の主張—



作品B  
TOKYO書  
2016



作品A 香紙切からの創作

大作 7.5尺×1.7尺×3

(半切½、中字)

「思ひしる」とことばが置かれています。されてしまふことがあります。す。とは言え、かな書では「読める」は重要で、作品の前に立つと自然と読んでしまいます。歌の思いの中で、何を伝えたいかを考えながら表現する、素材と表現が一致する自然体のかな、今の私にはほど遠い理想かも知れません。

らし書にしたのが掲載の作品Aです。以前は、蔵書から意図・敬書と基本

かな古筆を基に  
前回は漢字古典からの創作で  
した。今回はかな古筆・香紙切  
から創作してみました。取り入れ  
れる古筆により、まったく表情  
の違う作品になるのも楽しみの一  
つです。

自分の方法で進んで来ましたか、現在は表現とかけはなれるため、作品に少し古表を取り入れる方法で作品作りをしていきます。

また、大規模展覧会の壁面芸術として発展してきた大字がなは、小字と別の強弱・流れ・空間の生かし方、さらには作品を盛り上げる華（いちばん伝えたい所）も必要です。作品が一人歩きしないよう素材も十分把握しなければなりません。そこで問題になるのが、かなに欠かせない変体がなです。変体がなは一般的に複雑なイメージがあり、また、二刀目で

卷之三

か  
な  
(四)

勝山初美

# 書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

平成28年11月23日(水・祝)  
於 上野精養軒

## 「落款印の役割」

講師 河野 隆先生

### △公開講演会△

理事長 辻元大雲

昭和22年11月23日、戦後の混乱期の

渦中、本院は創立した。本年は70周年  
の大きな節目を迎えた。この佳き日に  
恒例の特別公開講演会が、上野公園精  
養軒に250余名の参加を得て開催された。

当日午後2時の開会に先立ち、午前中

には公益財団法人書道芸術院定例理事  
会も開催。今回は例年通り顧問及び評  
議員もオブザーバー参加していただき、

主に創立70周年記念事業の実施内容に  
ついて審議を行った。

講演会は講師に篆刻家の河野隆先生  
(略歴は後記)をお迎えし「落款印の

役割」と題し、普段身近に使用してい  
る雅印の扱いや印泥の手入れなど、具  
体的な事例や実演を交え内容豊かなお  
話をいただいた。特に押印の位置につ  
いて講演冒頭、西川寧、日比野五鳳、  
手島右卿、呉昌碩、青山杉雨各先生の  
代表作品を印を隠して例示し、参観者  
にテストを課し、皆頭をひねりながら  
回答するもほとんどの人は5問中0  
2問しか正解できず、反省の声しきり  
であったことが最初のハプニング。更  
に何種類もの印泥を持参いただき種  
類の多さに感心するやら、手入れにつ  
いては全く知らないこと、間違つて認  
識していたことなどこれも大いに反省  
させられることであった。月に2~3  
回はよく練つておくことが肝心で常に  
良い状態に保つておくことの大切さを

強く訴えられた。参加者一同大いに勉  
強になった。

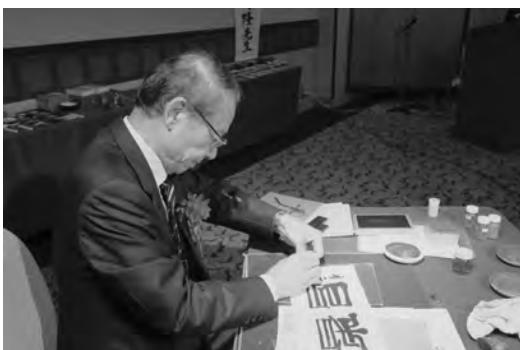
30分ほど時間延長して後、別室での  
創立記念日祝賀懇親会にも河野先生に  
ご出席いただき会を盛り上げてください  
た。祝賀懇親会の詳細は別稿に譲るが、  
楽しい交流の場であった。

\*河野 隆(号 鷹之)先生略歴  
1948年 大分県臼杵市に生まれる  
生井子華先生に師事  
神奈川県在住  
現 在 日展会員(本年第3回日展会  
員賞受賞)

著書 講究書法会常任理事  
謙慎書道会常任理事  
大東文化大学書道科教授ほか  
「篆刻まるわかりハンドブック」など多数。



演壇の河野先生



様々な用具を用いての実演



すらりと並んだ印泥

## 懇親会

片岡 豪峰

創立記念日の行事として、理事会・公開講演会に統いて多くの皆様に参加いただきました懇親会が行われました。懇親会は(公財)書道芸術院辻元大雲理事長の挨拶、毎日書道会西村事務局長の乾杯でとても和やかな雰囲気の中で会が始まりました。講演会の片付けを終えられ、参加いただいた河野隆先生にありがとうございました。総局支部長の先生方からは行事報告、行事予定、展覧会の案内等左記の通り紹介されました。

△東北総局▽東北総局役員会報告、巡回展の準備状況について

△甲信越支局▽長野県現代書藝展が12月3、4日松本市にて開催。来年度の単位認定講習会並びに巡回展の案内

△南関東総局▽12月20日から日本童謡の書展、1月9日から白扇書道会選抜展、成田書道協会主催新春書道展・成田市主催新春書道展ともに1月1日から

△東京総局▽1月4日から馨香会展、

2月28日から玉松会会展

△関西総局▽竹扇会書展、恩地春洋書展、関西書道協会展、玄遠社書展、游心会展、墨土舎展など書展報告

△山陰支局▽支部の実技講習会実施報告

△山陽支局▽巡回展概要、おいでませ山口へ

△四国支局▽松岡雲峰先生遺作展、恩地春洋先生個展、筆の友書道会事務所購入、大野祥雲先生・高知県文化賞受賞等報告

△九州支局▽単位認定講習会のお礼

など色々な報告・案内がありました。

北海道支局からはお便りで「視線は来秋へ、瞠目する作を念じて励んでいる」との報告もありました。

また、新年1月5日から毎日書道会

主催「現代の書 新春展」、1月4日から「TOKYO書舞」出品の各先生方の紹介、2月16日から「現代女流書100人展」出品者の先生方の紹介もありました。

中締めは小竹石雲常務理事にお願いし、とても充実した楽しい会が無事終了しました。



熱心に聞き入る大勢の受講生



辻元理事長によるお礼の言葉



西村毎日書道会事務局長による乾杯のご発声



大勢で賑わう懇親会

## 曹全碑 (後漢)

①

〈解説〉正しくは「郃陽令曹全碑」という。陝西省郃陽県の長官として黄巾の乱を平定した曹全の功績を称えた存命中の頌徳碑である。後漢の中平2年(185)の刻。曹全碑は長い間土中に埋没していたが、明の万暦年間(1573~1619)の初め、郃陽県の

旧城(今の莘里村)から出土し、現在は西安碑林博物館に所蔵されている。のびのびした波磔(横画や右払いの收筆のうねるリズム)が美しい典型的な八分の隸書で、書風は秀麗典雅、漢時代の碑を代表する一つである。

(編集部)

## 特別研究部臨書課題

||(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)  
当該古典の左記掲載部分以外も可。



(78%縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

## 漢字研究部臨書課題

||(半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

居延都尉。曾祖父述。孝廉。謁者。金城長史。夏陽令。蜀郡西部都尉。祖父鳳。

古筆鑑賞  
せきどほんこきんわかしゅう  
関戸本古今和歌集

(154)

(1)

\*落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみ可)

〈よみ〉

とものり  
(能里)

いろもかまおなじむかしにさく  
(路葉可奈九)

らめどしぶる人ぞあらたまりけ  
(羅面(志)多利)

れる 佐久  
をれるさくらをよめる

たれしかもとめてをりつるはる  
(利)

がすみたちかくすらん山のさく  
(三多可須)

らを

つらゆき  
(支利)

とめり

りやく

習い方解説 (四)

辻元大雲

受福無疆  
(詩経)  
(福を受くる疆り無し)

4字句最後です。限りなく幸福を受けるの意味で、正月号にふさわしい語句です。

今回は日本の空海灌頂記を念頭に置いて表現してみました。やは重厚な粘りある表現をねらい、筆は柔らかな羊毫中鋒筆を使用しています。柔毫筆によるのびやかな線質、渴筆を生かした厚みある線は、濃淡による効果にも助けられています。

線質の変化は筆や墨の違いと共に、紙質にも大きく影響されます。今回使用している半紙は中国本画仙を使用しています。やや厚手の潤渴の変化を出しやすい紙です。和画仙系統もなかなか捨てがたい味わいがあります。機械漉きの紙も使い方次第です。

※12月号予告「受福無疆」の「疆」は別字で「疆」が正しいので訂正します。「疆」は「強い」の意で、「疆」は「境界」から「区切る」「限り」の意となりま

受福無疆 よみ(福を受くる疆り無し)



川島舟錦

人生感意氣  
(人生意氣に感ず)  
(魏徵『述懷』)

人間は心意気に感じて動くもの  
(手柄や名声など論ずるに足りない)

今までやつてきたことがどうで  
あつたかは、これから生き方  
次第

襟を正さなければと思いを新た  
にしたのは、退職を前に浮かれて  
いた頃。

ピカソの青の時代を観てきた。  
デッサンが確かでした。基本で  
すね。

心の豊かさは人間の幅、深さに  
つながる。うんと遊んでうんと  
書く

世の中や人の役に立てるることを  
及していくことも……。

意気に感じつつ生きるしあわせを  
背中で見せてくださいました。そ  
のことが自分形成や作品制作に波  
及します。

皆さんにそれぞれたくさん思  
い出を残してくださっていると聞  
きます。

人間は心意気に感じて動くもの。  
懐を広く、やさしく、あなたか

書体=楷書

人生感意氣 よみ(人生意氣に感ず)



習い方解説 (四)

石井明子

新しき年の始の初春  
今日ふる雪のいや重け吉事  
(萬葉集・大伴家持)

あ  
ま  
め  
か  
せ  
も  
ま  
せ  
ひ  
か  
れ  
ゆ  
み  
や  
き  
く  
せ

莫大な量の萬葉集4516首の最後の歌です。萬葉集は現代の私たちには読んでもすぐ理解できる内容ではありません。私は岩波新書 茂吉著『万葉秀歌』(上)(下)を参考にして、大変助かりました。

この歌の元の表記は次です。

新 年乃始乃 波都波流能 家

布敷流由伎能 伊夜之家餘其騰

日本語の歴史の一端が伺えます。

かな誕生前の歌をかな作品にするのはどうかという疑問がない訳で

はないですが、よい歌が多いので

作品にしています。そして、時代

が变つても变らない人の思いに心

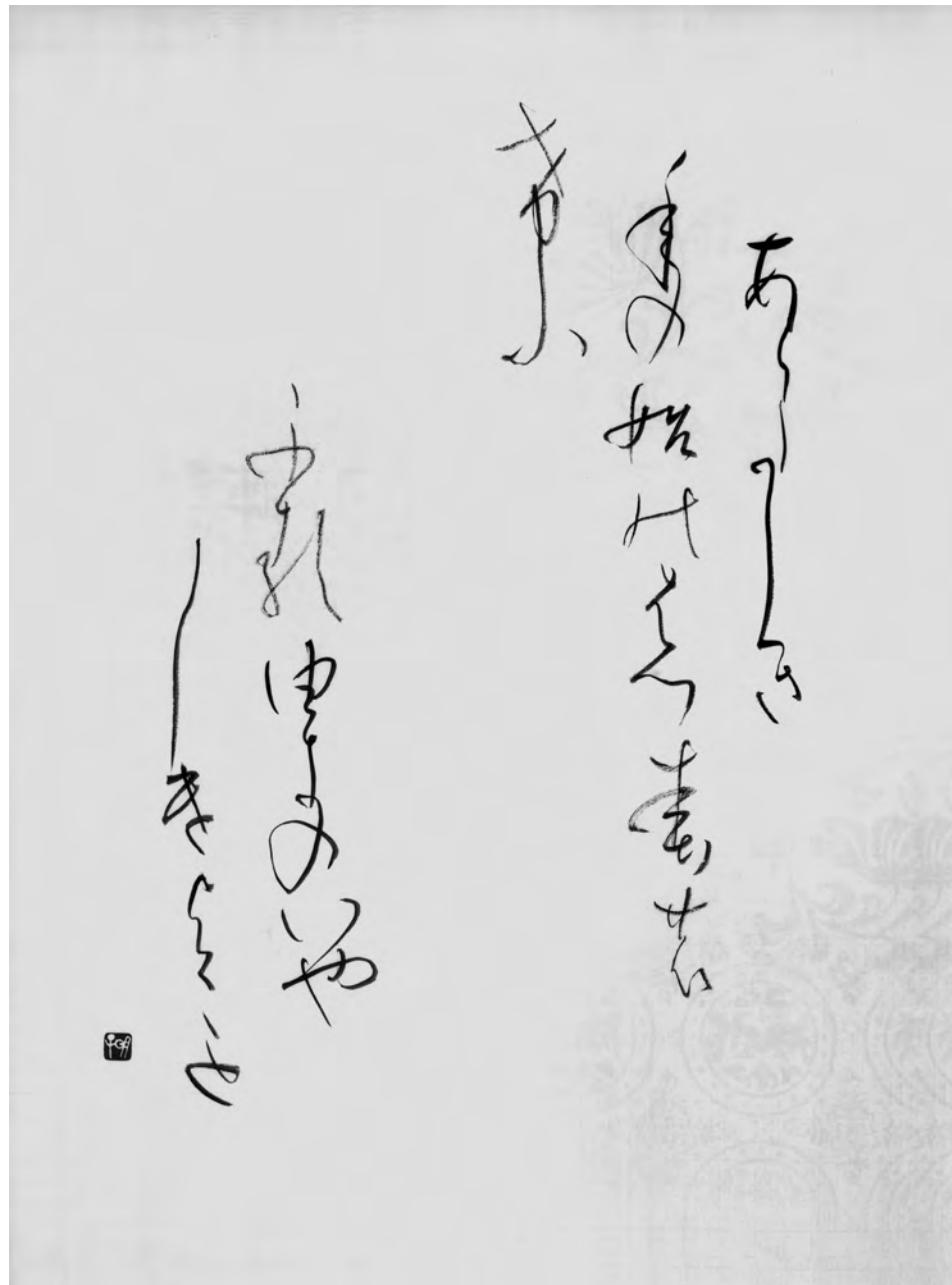
を深く致します。

明るく、伸びやかで風が流れる作品に憧れます。なかなか通り抜けません。自分で一つ目標を定めてから制作してみましょう。

よみ方 新(あら多)しき年の始の(能)初(者川)春の(農)

今日(希ふ)ふる(類)雪(由支)のいや重(し)け(遣)吉事(与)こと

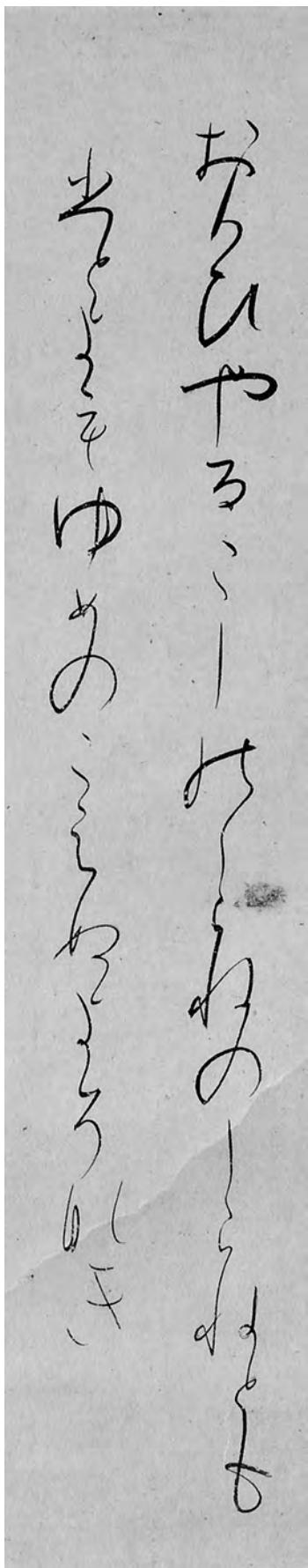
創作



かな規定秀級以下【二月十五日締めきり】用紙半紙タテ $\frac{1}{2}$ 〔料紙可〕(たて32センチ・よこ12センチ)

高野切第三種  
(掲載写真縮小93%)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分（2字以上の連綿）を臨書する。



よみ方 おも(无)ひやるこしの(能)しらねのしらねども

ひ(悲)とよも(毛)ゆめのこえぬよぞ(曾)な(那)き

見越雪枝

習い方解説

朝日かけさしの光のすがしさや  
ひとだちの福寿草の花

(島木赤彦)

【用印用紙縫めあり】用紙 小画仙紙半切（料紙可）

見越雪枝選書

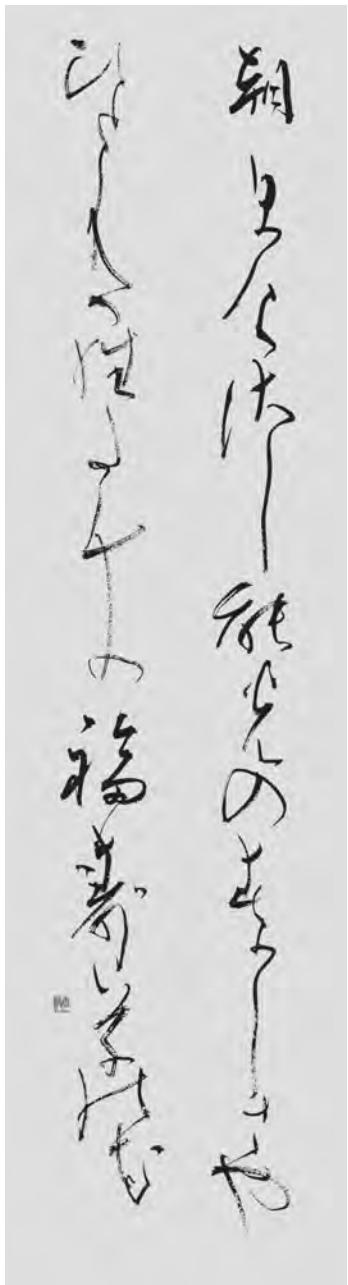
書の中にも絵画的要素が含まれます。墨色、墨の効果、陰陽の変化をつけると、紙面が立体性を帯びます。

2 行書は隣の行との響きあいを重視し創作すると良いでしょう。連綿の表情に転折（方向が急に変わること）がありますが、次の方向へ移る時、起筆は強めに突込む表情が変わります。（やや、一矢一擧）

創作

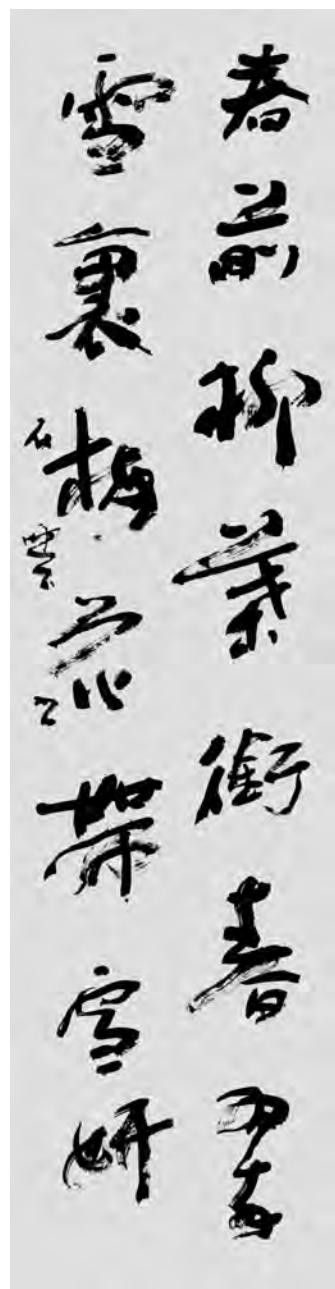
\*たて形式に限る

よみ方  
朝日か(可)げ(介)さ(佐)しの(能)光のす(春)が(可)しさや  
一(ひと)群(无)羅(だ)多(ち)千(の)福壽(寿)草(の)能(花)



13

小竹石雲



春前柳葉銜春翠

雪裏梅花帶雪妍

(王勁)

(春前の柳葉春を銜みて翠に、雪裏の梅花雪を帶びて妍なり)

書体＝自由

逞しく力強い作品を心がけて書いてみました。  
そのためには、墨量を多く筆は墨含みのよい羊毛でやや大きめのものを使用しました。  
字形はやや偏平にし、重心を下げ気味にし、大らかに運筆しました。

・2行目は1行目の字と字との間に書くようにして、流れが通るようにしました。  
※たて形式に限る

#### 習い方解説 (四)

前田 龍雲

漢字条幅規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

前田 龍雲選書



龍雲書

書体＝自由

意味「梅の花は新旧(暮れから正月)両年に渡って開き柏(柏)の葉は日月星三光の酒を浮かべている」です。  
今回は初唐の三大家である褚遂良の「枯樹賦」を参考に、複雑で變化があり情趣豊かな線質で、細線が緩まないよう、また、上品に纏まればと思い書いてみました。

梅花舒兩歲之裝 柏葉汎三光之酒  
(梅花は両歳の装いを舒ばし、柏葉は三光の酒を汎かぶ)  
(昭明太子)

習い方解説  
(四)

塚越紅苑

木枯らしとたえて渋ゆる空より  
地上に薄りくくすしき光よ  
かの皆りこえるしじまの中に  
煌めき搖れつ星座はめぐる

寒の入りを迎立春になる。寒の明けまでの約一ヶ月間が寒の内です。「小寒の氷大寒に解く」という言葉があるように、小寒に張った氷が大寒に解けるほど、むしろ小寒の方が寒いと感じるときもあります。  
冷えきった夜半見上げると、澄みきつた夜空にさえざえと星が輝いていることがあります。白い息を吐きながら頬をほてらせ、つい星のまたたきに見とれてしまうのもまた、この頃ならではです。  
幼い頃を思い出し、口ずさんで書いてみましょう。中字用万年筆を使って書きました。

※落款を必ず入れる。  
(自分の名前を入れること)

紅苑書

用紙=はがきの大きさ(14.8×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

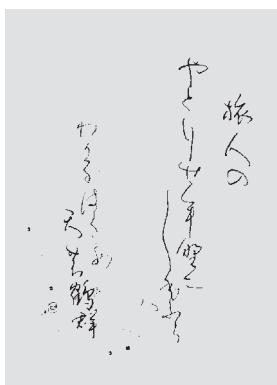
書体=自由

# 今月の

## ホーリー作品 各部総評 No. 667

**かな部 師範 大和由紀江**  
しなやかな線の粗密がゆったりとした雰囲気を醸し、格調高い。料紙、雅印選び共、調和的で立派。

◎かな部総評 テキストから半紙大への拡大が困難な作多出。紙面を美しく使う配慮を望む。解説はルビも含めて注意のこと。(明子評)



**かな条幅部 五段 笹 隆月**  
丁寧でゆったりした書き振りが温かな人柄を連想させます。手本の解説が確かに好感もてる姿です。◎かな条幅部総評 横形式は文字の大小や太細の加減が難しい。左右、上下、行間の間などもよく理解して臨んでほしい。(洋子評)



漢字条幅部 師範 青木 藤漣

毫毛による厳しい線質が小気味よく、一箇所の連綿がスパイスとなつて構図に動きが出た。

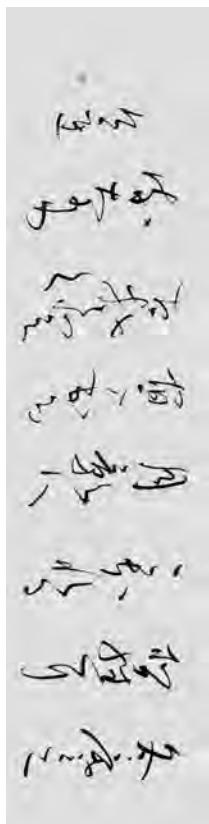
◎漢字条幅部総評 参考手本を素材にどのように料理するか楽しみに拝見。半紙より広いフィールドを下級者も楽しみたい。(翠風評)



前衛書部 特選 石澤 徳子

書線厳しく軽快で造形美見事な作で好感がもてる。落款の位置大きさの配慮を望む。

◎前衛書部総評 厳しい線質で重量感の作品が多いが、更なる新しい表現を期待する。(仙草評)



現代詩文書部 特選 石川 洋子

字形、空間 リズムは「かな」に近い構成。墨色も優しく紙を捉えて実に美しい作品である。

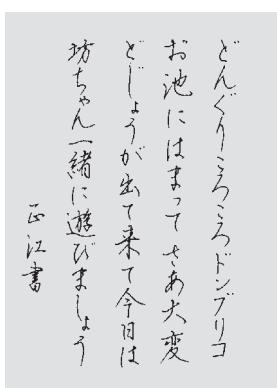
◎現代詩文書部総評 作品に意図目的を持って書いているだろうか。無い作は観る方も辛い。(素雪評)



ペン字部 師範 有田 正江

何より布置が見事で、行間の余白が美しい。線冴え格調高く、技術の高さが窺える作品です。

◎ペン字部総評 今回は漢字・平がな・片かなの調和がポイントです。全体的に大らかで暢達した筆致の作品多かった。(紅瑠評)



漢字部 師範 福田 良子

丁寧な心くばりのある作。おだやかな中に芯の通った明快な表現で、心安らぐ安定感がある。

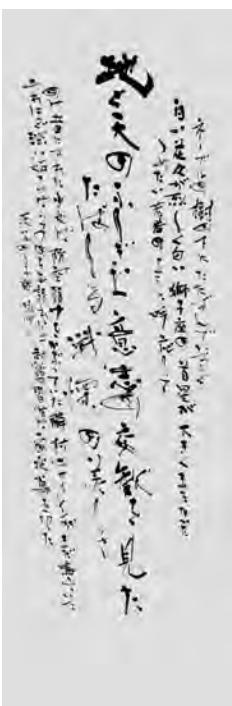
◎漢字部総評 上級4字句は書き草書の字形に注意したい。下級楷書は多様な書風の研究を。(大雲評)

易さもあり安定した作多かった。上級4字句は書き草書の字形に注意したい。下級楷書は多様な書風の研究を。(大雲評)

# 今月の 特別研究部優秀作品（特選）

## 現代詩文書 (書游会)

庄司咏艸



「茨木のり子詩　対話より」

庄司咏艸書

180×60cm

◆三部構成の意図がうまく現れて、不思議なリズムを感じさせる作。下部の余白が明るさを見せる。  
(大雲評)

長鋒筆を使い、巧みな筆法で構成された。新鮮な構成に趣がある。潤滑の化もあり、特に渴筆が美しい。レイアウトに魅了された。

臨書 (森地) 東平絹子「蘭亭序」

子會稽山陰之蘭亭脩禊事也。齊賢平至少康集此地，有峻領茂林脩竹，又有清流湍湍，在右引爲流觴曲水。列坐其次，雖無絲竹管弦之盛，一觴亦足以暢叙情懷。是日也天朗氣清，惠風和暢。仰觀宇宙之大，俯察品物之廣，所以遊目極望，足以極視聽之娛。信可樂也。夫人之相與，俯仰一世。或因緣懷舊，亦足以暢叙情懷。向之所欣，俯仰之間，已為陳迹，猶不能不以爲懷。向之所欣，俯仰之間，已為陳迹，猶不能不以爲懷。況修短終期於盡，豈不悲哉！每覽昔人興感之言，未嘗不爲之動容。蓋昔人所憂，猶可與我共語。固知一死生爲虛無，齊彭鵠爲微眇。固知一死生爲虛無，齊彭鵠爲微眇。後之覽者，亦將有感於斯文。

東平絹子陶

55×175cm

◆難しい字粒での丹念な全臨で力<sup>いのち</sup>値<sup>た</sup>を窺わせる。さらに今少し肩の力が抜けたらと思うのは、望み過ぎか。  
(翠風評)

のユーモア感が割り引かれたよう  
に思う。上部と下部の響き合いが  
ほしい。  
(慧香評)

と飛沫、上部と下部との語り合ひが今少し欲しい気がする。  
(翠風評)

◆難しい字粒での丹念な全臨で力の籠を窺わせる。さらにもう少し肩の力が抜けたらと思うのは望み過ぎか。（翠風評）

◆原帖の構成をやや拡大して、しつとりとした中に柔軟な表情を見せる作。細部への丁寧な観察眼が見事。（大雲評）

◆飛墨の効果を生かし、鮮烈な印象を与える作。上部の緊張感に対し、下部2本の斜線が弱いか。  
（大雲評）

◆飛抹が美しく爽やか。上部と下部との語り合いが今少し欲しい気がする。  
(翠風評)

卷之三

◆飛墨の効果を生かし、鮮烈な印象を与える作。上部の緊張感に対し、下部2本の斜線が弱いか。  
（大雲評）

◆飛抹が美しく爽やか。上部と下部との語り合いが今少し欲しい気がする。  
(翠風評)

(總社編)



阿部邑里書

◆併ひやかかに變化ある縦管で全臨の精神力は見事。布置章法も終始一貫、整然として心地よい。

(東舟評)

◆原帖の観察結果を反映させ続けた線の冴え際立つ。何よりも不乱の心が良い。

永和九年歲在癸卯暮春之初  
會稽山陰之蘭亭脩禊事  
也羣賢畢至少長咸集此地

前衛書  
(容洲社)  
「心象」  
阿部

巴里



漢字研究部  
(蘭亭序)

選評 稲垣小燕

今月のホープ作品



板橋雅邦

漢字研究部特選  
書学する者にとって必修の古典です。故に日頃から課題として取り組んでおられる方に敬意を払う気持ちをもって臨書したいもの

あります。筆の弾力を生かし抑揚、緩急の変化によるリズミカルな線となり、表現豊かな練度の高い臨書です。特に「盛」には特徴が集約され格調が高いです。

◎漢字研究部総評



香霞風葵睦白  
風花華龍心雅

和琴由初裕清  
敬燁子江子風

芝朱清祥裕  
香星洗扇子

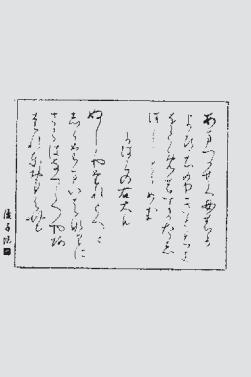
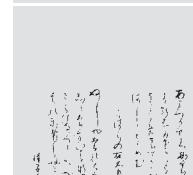
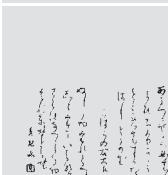
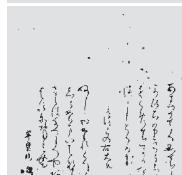
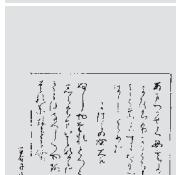
叙事箇弦久雅岳  
孝右佳美泉舟

も多いと思います。今回、審査を通して感じたことは、上位には感銘を受けた作品が多数あり頗もしく思いましたが、反面もっと丁寧に臨書する姿勢を養ってほしいと思う作品も多く見受けられました。丁寧に觀察し、特徴をしっかりと捉えること、そして筆力をつけることが上達への一步であると思います。古典

かな研究部  
(曼殊院本古今和歌集)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



昌万里子

翠絢り  
か寶水

真藤洋  
風紀子

白洋藤  
香潤子

川崎優子

◎かな研究部総評  
この古筆を見ると鳥が大空を舞うような感じにする  
一目の墨量を増やし、たっぷりとした感じにする  
と、メリハリがつき、さらによくなると思います。  
筆がよく立つて、線質が澄み通っています。歌の一  
けます。臨書の際は、字間・行間に特別な注意が必  
要です。狭苦しい作品が多く、残念でした。

| かな研究部 成績表  |   | 特選 | 川崎 優子 |
|--|---|----|-------|
| 澄高竜 A や大椿<br>春真泉 I ま雲翠<br>秀  | 木泉白如う竜大椿青葱菊 A 桜紅高生宗秀東も立有も蘭<br>珠月る泉雲布蓮書月 I 草風井大苑明伯く精秋く鼎<br>曉会  | 蘭鼎 |       |
| 宇岩今伊儀安<br>井上村藤東貝美<br>楠郁貴寿京清代<br>麗子泉子子羅予  | 鈴堺辻西松木後堀武沼関新藤松福吉新茂岩山戸千石青川<br>木江 山本村藤切藤田口井村本田井木崎本部田川木崎<br>百万ゆ  | 特選 |       |
| 玉松佳  | 睦幸洋葵泰順良幸蕙奎芳恵昌合里翠絢洋真藤白洋藤優<br>心泉子龍子泉子雲暉心枝子子子か寶水子紀風香子泡子  |    |       |
| 青木作<br><small>50書</small>  | 昌蓮や蘭竜五菊石千前樹東玉遊千一竜卯童紅鉢の清や蒼千大幕広竹安もた<br>苑紅も鼎泉葉月習葉橋原向松雲葉宮泉月泉瑤扇か月ま陽葉雲張島扇波くか  |    |       |
| 葵郷   | 吉遊山森森宮松平春早畠長西戸鶴土高高須鈴猿境齋出河黒北川河小岡梅津佳<br>田佐口 田田崎丸山山坂谷澤村田谷橋田木渡野藤山野柳村本岡野部寺<br>翠紅律直龍睦英愛彩勝梅芝千彩博雅絶雅香利葦和つ美惠竹惠南星久代代<br>綾雅子子博子明石華美艸香峰舟裕江子泉舟子右え艸子葉舟汀扇美子                                     |    |       |
| も澄松 高<br>く春村 入   | 正京幸竹高椿竹あ幕千高長澄長椿洞玉鉢高洞玉倉耕春翠や澄高春 A 明蕙澄こ大正梓福大<br>華橋扇屬陵翠美か張葉崎月春月翠書松扇陵書川吉雲汀柳ま春崎汀 I 漢書春だ雲華江山雲<br>こ樹正秀澄こう水千龍原華明春だる海葉泉   |    |       |
| 新阿青會<br>井天木木木<br>坊   | 驚吉山山安八本松松松增深平平濱橋野丹中中土渡近田高神下清嶋坂齋小草木川川河加葛加大字五飯飯安浅川<br>沼田本村田嶋木吉島重浦田澤山山田本村羽村澤江井子池玉橋宮田水 本藤島刈原元崎合藤瀬森田十高泉藤川<br>眞橋 さか 美み 加由与ふ 明川鳳   |    |       |
| 藤洗玉松勇<br>雪枝草月介   | 将佑梅炎明翠玉佳佳だつ竹紅陽恩寛よ弘紀柳哲幸玉代紀祐里翠眞輝榮綾和翠惠日喜春佳幹洋叙江<br>太子香秀子子舟香舟景江子月子雪霞露子子絶枝子芳子美香子華子仙美敬陽美夏代華采生子孝江   |    |       |
| 土香正誠生書<br>大氣書華和大游生陽  | 八昆春竜昌英大樹翠大墨た蘭梓附白詢英生祥彩千華白琇書大泉玉澄梅こ高高た A 誠澄千八八華八岩誠正文大<br>泉葉阪和大游生陽汀泉苑峰阪原印阪花か鼎江中露峰大紫葉仙扇韻版会松春桃だ井真か I 和春葉街戸様街沼和華月阪   |    |       |
| 杉須神新新庄篠穴佐櫻坂齊後近近小小河小倉工吉北岸菊神加小小小小大大櫻梅梅生鶴植猪井市板石石石石生<br>田賀保谷條司田倉々田巻藤藤林林口野壁本峰藤瀬又田田地地田納寺由富   | 野野高川西石田山木方澤田又上川垣渡崎川井<br>澤幸木 素理 純香彩春彩東泰惠典順よ萩西彩輝一星和久簾美琴美理芝紫青翠正甘津澄萩<br>祥一佳翠三味美和と龍麗早喜淑閑智白翠理純香彩春彩東泰惠典順よ萩西彩輝一星和久簾美琴美理芝紫青翠正甘津澄萩<br>風起子光郎艸子子貞苑萩子窓江子董徑佳子蘭雨映乃子峰水子子こ光鈴香峯美祥子子山子舟枝扇雲泉鳳径子雨水水花 |    |       |
| I 明竹無清祥白華<br>遷 S 漢美門月紫鸞仙<br>139 六吉横山大山山谷八茂宮宮三松増眞牧前前前堀福深平日東春林林浜長野野根根西仁永中仲中中中豊富積塚武田高高橋<br>名本氏木千由裕権<br>弘鶴蘭清紀香雪美姫翠洋成敏陽華栄清実幸瑛法流清優右敏聰雅美永 喜飛み瑠光時ゲ游豊亮惠 恵雅え花代貞千徹<br>江子舟玉江京織翠子妃芳子子秀子次祐子仙子源洗子真子春子子董翠知子龍子美堂子子溪作子子勝子雲子源子代 |   |    |       |

白澄琇生白書華高有澄土大正京蘭正た麗書玉高水土北泉上雲さ天上皓秀大上有天玉青書  
遷 S 漢美門月紫鸞仙 川村だ香 露春韻大驚徑仙陵次春氣雲華橋鼎華か澤泉川崎海氣原会泉溪つ漳泉映水雲泉秋漳川峰游  
外

吉横山大山山谷八茂宮宮三松増眞牧前前前堀福深平日東春林林浜長野野根根西仁永中仲中中中豊富積塚武田高高橋  
名本氏木千由裕権

弘鶴蘭清紀香雪美姫翠洋成敏陽華栄清実幸瑛法流清優右敏聰雅美永 喜飛み瑠光時ゲ游豊亮惠 恵雅え花代貞千徹  
江子舟玉江京織翠子妃芳子子秀子次祐子仙子源洗子真子春子子董翠知子龍子美堂子子溪作子子勝子雲子源子代

## 平成29年 (公財) 書道芸術院 年間行事予定表

|     |       | 芸術院行事                    |        | 展覧会関係            |                |
|-----|-------|--------------------------|--------|------------------|----------------|
| 月   | 日     | 内 容                      | 日      | 展覧会名等            | 場 所            |
| 1月  | 5     | 仕事始め                     | 4～15   | TOKYO書2017       | 東京都美術館         |
|     |       |                          | 5～11   | 毎日新春展(役員展)       | 和光ホール          |
|     |       |                          | 5～11   | 毎日新春展            | セントラルミュージアム銀座  |
| 2月  | 15    | 第70回記念書道芸術院展陳列           | 6～7    | 第69回毎日書道展運営委員会   |                |
|     |       | 第70回記念書道芸術院展記者会見         | 16～21  | 第70回記念書道芸術院展     | 東京都美術館         |
|     | 18    | 作品研究会(都美) 14時～           | 16～21  | 第68回全国学生書道展      | 東京都美術館         |
|     | 19    | 第70回記念書道芸術院展行事           |        |                  |                |
|     |       | 学生展表彰式(帝国ホテル) 11時～       |        |                  |                |
|     |       | 表彰式(帝国ホテル) 14時30分～       |        |                  |                |
|     |       | 物故者慰靈祭(帝国ホテル) 16時～       |        |                  |                |
|     |       | 功労者表彰(帝国ホテル) 17時30分～     |        |                  |                |
|     |       | 祝賀会(帝国ホテル) 18時～          |        |                  |                |
|     | 20    | 作品座談会(上野精養軒) 10時～        |        |                  |                |
| 3月  | 11    | 理事会 10時30分～(事務所)         |        |                  |                |
| 4月  |       |                          | 13     | 毎日書道展事務局合同会議     | 如水会館           |
| 5月  | 13    | 監査 10時～・理事会 14時～(事務所)    | 25     | 第69回毎日書道展審査員総会   | 国立新美術館         |
|     | 30    | 定時評議員会(文具会館)             | 26～28  | 第69回毎日書道展鑑別      | 国立新美術館         |
| 6月  | 17    | 理事会 13時30分～(事務所)         | 1～4    | 高野山競書大会審査        | 金剛峯寺           |
|     |       | 第71回書道芸術院展運営委員会(〃)       | 29     | 第69回毎日書道展対策委員会   | 国立新美術館         |
|     |       | 第71回書道芸術院展実行委員会(〃)       | 30～7/2 | 第69回毎日書道展審査      | 国立新美術館         |
| 7月  | 23    | 第69回毎日書道展書道芸術院祝賀会        | 5      | 第69回毎日展会員賞選考     | 国立新美術館         |
|     |       |                          | 6      | 第69回毎日展大臣賞選考     | 国立新美術館         |
|     |       |                          | 12～8/6 | 第69回毎日書道展        | 国立新美術館/東京都美術館  |
|     |       |                          | 23     | 第69回毎日書道展表彰式/祝賀会 | ザ・プリンスパークタワー東京 |
|     |       |                          |        |                  |                |
| 8月  | 14～16 | 夏期休暇                     |        |                  |                |
|     | 26～27 | 単位認定講習会(長野県/諏訪市)         |        |                  |                |
|     | 10    | 秋季展締切                    |        |                  |                |
|     | 30    | 秋季展審査                    |        |                  |                |
| 9月  |       |                          |        |                  |                |
| 10月 | 2     | 秋季展陳列                    | 3～8    | 書道芸術院秋季展         | セントラルミュージアム銀座  |
|     | 3     | 秋季展表彰式/研究会/祝賀会           | 18～25  | 創立70周年記念海外展      | オーストリア・ウィーン市   |
|     | 18    | 第69回全国学生書道展作品締切          |        |                  |                |
| 11月 | 1～4   | 第69回全国学生書道展審査            |        |                  |                |
|     | 23    | 創立記念日(上野精養軒)             |        |                  |                |
|     |       | 理事会 10時30分～              |        |                  |                |
|     |       | 講演会 14時～                 |        |                  |                |
|     |       | 懇親会 16時～                 |        |                  |                |
| 12月 | 1     | 第71回書道芸術院展(一般/無鑑査)書類作品締切 |        |                  |                |
|     | 16～17 | 第71回書道芸術院展鑑別・審査(無鑑査/一般)  |        |                  |                |
|     | 27    | 仕事納め                     |        |                  |                |